



いわて

東日本大震災



「寄り添うことのできる介護福祉士になりたい」。先輩の体験談に真剣に耳を傾ける古館朱莉さん=盛岡市大沢川原の盛岡医療福祉専門学校

山田町大沢
山田高吹奏楽部顧問
山本友里恵さん(46)
朱莉さんはトロンボーンを担当し、一生懸命練習していました。男女問わず友人が多く、ムードメーカー!いつも笑顔で、いてくれるだけでもいる気持ちにさせてくれた子だった。

卒業してからも「先生元気?」と電話やメールをくれたり、学校に顔を出してくれたりする。本当にうれしいや、山田が大好きなんだとかわつてくる。

介護福祉士の勉強に実習、大変なことが多いと思うが、持ち前の明るさを失わず頑張ってほしい。朱莉さんならお年寄りに寄りそつて一緒に笑っている、そんな介護福祉士になれると信じている。いつまでも見守っているからね。

明るさを失わずに
応援メッセージ

山田の人は、山田が大好きな人が多いんだ」と、あらためて感じた。友人や家族の大切さなど、震災後に

初々しいスース姿の学生たちが、先輩たちの体験談に真剣に耳を傾ける。盛岡市大沢川原の盛岡医療福祉専門学校1年、古館朱莉さん(19)は17日、卒業を控え、2年生の実習体験の発表を聞きながら、生まれ育った山田町で介護福祉士として働く自らの姿を思

い描いていた。古館さんは昨年3月1日、山田高を卒業。東日本大震災が起きたのは、中高6年間で吹奏楽部と共に過ごした4人で開いた「お泊まり会」から自宅に帰った時だった。大きな揺れに襲われ、ガクガクと震える足で母親とともに、自宅から少し先の高台にある山田南小まで避難した。

携帯電話には、前日の午後2時46分に撮影した4人のおどけた顔が写つてい

た。「ボン、ボン」と打ち上げ花火のような音が聞こえた。町を燃え尽くす火災の音だった。お泊まり会を開いた沢村菜摘さんのおじ友人の家の嫁がなくなつた。

高台にある山田南小まで避

難した。

福祉で貢献する決意

頑張る期間



復興祭のため帰省し、久しぶりに再会した(右上から時計回り)古館朱莉さん、長根成美さん、清水あずささん、沢村菜摘さん=2011年9月撮影(古館朱莉さん提供)

ふるまと胸に

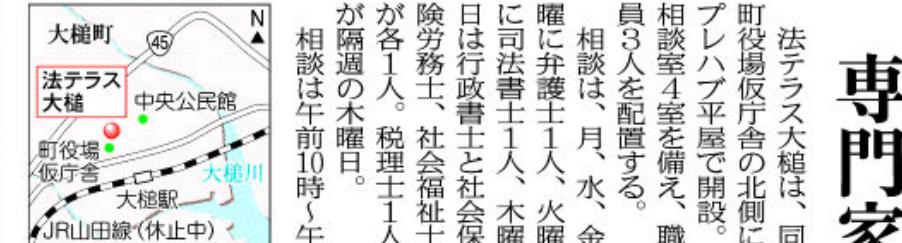
内陸からの再起

生活再建



来月、大槌に法テラス開設

移動巡回車両も導入



日本司法支援センターは3月12日、大槌町上町に同センター出張所(法テラス大槌)を開設する。東日本大震災後、県内への出張所開設は初めて。弁護士や司法書士、社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

法テラス大槌は、同駅場仮庁舎の北側にプレハブ平屋で開設。相談室4室を備え、職員3人を配置する。日は行政書士と社会保険労務士、社会福祉士が各1人。税理士1人が隔週の木曜日。相談は午前10時~午後4時を予定。需要に応じ延長も検討する。設置期間は現時点で2年間を予定。需要に応じると予測。各分野の専門性を生かした対応が重要になるとしてくる予測。

法テラス大槌は、同駅場仮庁舎の北側にプレハブ平屋で開設。相談室4室を備え、職員3人を配置する。日は行政書士と社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

法テラス大槌は、同駅場仮庁舎の北側にプレハブ平屋で開設。相談室4室を備え、職員3人を配置する。日は行政書士と社会保

公営住宅は高台に

宮古・田老地区の復興計画案

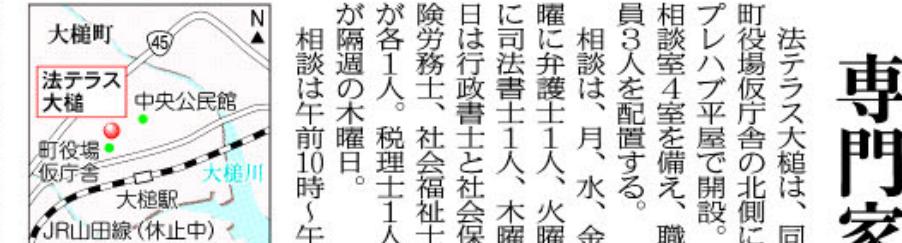


かさ上げ地に建てず 浸水区域にも宅地



来月、大槌に法テラス開設

移動巡回車両も導入



日本司法支援センターは3月12日、大槌町上町に同センター出張所(法テラス大槌)を開設する。東日本大震災後、県内への出張所開設は初めて。弁護士や司法書士、社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

法テラス大槌は、同駅場仮庁舎の北側にプレハブ平屋で開設。相談室4室を備え、職員3人を配置する。日は行政書士と社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

田老地区復興まちづくり計画の最終案を協議する委員会(加藤伸一会長、委員25人)は22日、最終調整するため臨時会を開いた。浸水区域内で建設するため、公営住宅を建設する案となっていた田老地区。18日の住民集会では、「また同じ過ちを繰り返すのか」などと、かさ上げした

浸水区域の安全性を不安心の声が上がった。委員20人が出席した臨時会合でも「かさ上げはやめて安全な場所に移転すべきだ」などと意見が出たが、県の津波シミュレーションにより、大部分の住民は「かさ上げした

浸水区域の安全性を不安心の声が上がった。委員20人が出席した臨時会合でも「かさ上げはやめて安全な場所に移転すべきだ」などと意見が出たが、県の津波シミュレーションにより、大部分の住民は「かさ上げした

浸水区域の安全性を不安心の声が上がった。委員20人が出席した臨時会合でも「かさ上げはやめて安全な場所に移転すべきだ」などと意見が出たが、県の津波シミュレーションにより、大部分の住民は「かさ上げした

浸水区域の安全性を不安心の声が上がった。委員20人が出席した臨時会合でも「かさ上げはやめて安全な場所に移転すべきだ」などと意見が出たが、県の津波シミュレーションにより、大部分の住民は「かさ上げした

法テラス大槌は、同駅場仮庁舎の北側にプレハブ平屋で開設。相談室4室を備え、職員3人を配置する。日は行政書士と社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

サントリリーが10億円 本県に2回目の寄付



～被災者からのメッセージ～

目標は中総体の優勝
野球部に所属。中総体で優勝することが目標だ。スクールバスを利用していられるので1時間しか練習できない日もあるが、精いっぱい努力したい。1年後の高校受験に向け、勉強も頑張る。七夕祭りにたくさん支援が寄せられ、今から夏を楽しみにしてほし

いる。震災前よりも活気がある街になつてほしい。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。

海波でくへこ
題字・山下文男さん



高齢者の防災対策を

地域活性化の役に立つべきである。早く釜石に戻らなければいけない。私は釜石で生きたい。だから釜石で死んでみたい。がんばります。

専門家が細かく対応

日本司法支援センターは3月12日、大槌町上町に同センター出張所(法テラス大槌)を開設する。東日本大震災後、県内への出張所開設は初めて。弁護士や司法書士、社会保

辺労務士ら各分野の専門家が無料で相談に応じる。町内や周辺市町を巡回する移動相談車をも導入し、被災者の生活再建に向けたきめ細かい対応を目指す。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。